

歴史は女で作られる (1956)

LOLA MONTES
THE FALL OF LOLA MONTES

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 120分
初公開日 1956/03/10
公開情報 新外映

リバイバル 2011/12/23 [紀伊國屋書店＝マーメイドフィルム] (デジタル・リマスター完全復元版)

【解説】

浮揚するシネスコ画面の中に展開する錦絵。ルードヴィヒ公の想われ人だったことで知られる、19世紀末ヨーロッパ史を飾る、貴婦人にして踊り子ローラ・モンテスの生涯を大胆な回想形式でつづるM・オフルスの野心作。サーカスの芸人に身をやつしたローラは彼女の半生を回顧するそのショウの主役だが、団長の立て板に水の口上に促された観客の不躰な質問にも答える。そして思い起こす作曲家リストとの秘めたる情事。苦渋に満ちた少女時代。彼女は母の愛人だった男爵と英国で結ばれるのだが、所詮田舎貴族の彼を捨て、パリに出てダンス修行をする。そして、数々の貴族、富豪と浮き名を流し、やがてババリアで運命の人と会うのである。一見すると、脈絡なく回想は現実のショウ場面と交錯し、その挿話の拾い方も散漫に思えるが、これが不思議と行間（というか画面外）に想像を働かせ、観る者の頭の中でドラマを紡ぐ。それが快い。そして、フェリーニ作品など比較にならないサーカスの美しい表現には圧倒される。映像自体が音楽となって鳴っているかのごとき錯覚を感じさせる詩的な描写で、“見せ物”に堕したローラの哀愁が際立つ。回想もいたって流麗であるがゆえに虚構性を生み、却って回想の主の真実に思いを至らせる。これはもう映画でなければ達し得ない表現領域の見本を示すかのような作品だ。オフルス美学ここに極まれりーといった感じ。

【クレジット】

監督	マックス・オフルス	Max Ophuls
脚本	アネット・ワドマン	Annette Wademant
	マックス・オフルス	Max Ophuls
撮影	クリスチャン・マトラ	Christian Matras
音楽	ジョルジュ・オーリック	Georges Auric
出演	マルティーヌ・キャロル	Martine Carol
	ピーター・ユスティノフ	Peter Ustinov
	アントン・ウォルブルック	Anton Walbrook
	オスカー・ウェルナー	Oskar Werner
	ウィル・キャドフリーグ	Will Quadflieg
	ポーレット・デュボスト	Paulette Goddard